滋賀県基本構想実施計画(第3期) 骨子案

資料1-1

- ✓ 「滋賀県基本構想」に基づく県の取組を進めるうえで必要な主要政策を定める計画
- ✓ 実施計画(第3期)の計画期間：令和9年度(2027年度)から令和12年度(2030年度)[4年間]
- ✓ 基本構想の計画期間(令和元年度(2019年度)～令和12年度(2030年度)の12年間)を4年ごとの3期に分けて策定
- ✓ 本県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付け

1　策定にあたって

（1）実施計画(第２期)の検証

- 実施計画(第２期)では、「ひとの健康」「社会・経済の健康」「自然の健康」の全てが充足した状態を目指し、13の政策の柱に基づき、施策を展開。
- 目指す姿(総合目標)に掲げた3つの指標のうち、「滋賀に誇りを持っている人の割合」および「滋賀に住み続けたいと思う人の割合」は、計画策定時や前年度実績を上回った一方で、「感じている幸せの度合い」は、計画策定時や前年度実績を下回る結果となった。
- 現行の基本構想の計画期間からの経年データをみると、令和元年(2019年)は全ての指標でこの期間の最高値となった一方で、令和２年(2020年)～令和４年(2022年)にかけては数値が下落し、低水準で推移している。

	実績							第2期 計画(目標)
	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
感じている幸せの度合い(0～10点)	6.90	6.85	6.61	6.63	6.71	6.56		(6.90)
滋賀に誇りを持っている人の割合	79.5%	77.9%	76.6%	75.0%	75.3%	78.4%		(79.5%)
滋賀に住み続けたと思う人の割合	80.4%	79.7%	75.5%	76.0%	76.0%	77.0%		(80.4%)

- 令和２年(2020年)当初に日本国内で新型コロナウイルス感染症が確認されて以降、感染拡大に伴う不安感や、移動・行動制限の長期化による自粛疲れや経済停滞に加えて、国家間の対立が深まり国際秩序の均衡が崩れ、ロシアによるウクライナ侵攻(2022年～)による資源価格の高騰(＝物価高騰)や平和への揺らぎに対する先行き不安等が、県民の暮らしやこころを直撃し、主観的な「幸福度」を大きく押し下げたと考えられる。
- そうした一自治体の枠組みを大きく超えた地球規模の潮流の中においても、令和５年(2023年)～令和６年(2024年)にかけては、「滋賀に誇りを持っている人の割合」および「滋賀に住み続けたいと思う人の割合」が回復傾向を示している。暮らしを取り巻く環境は依然として厳しさが残り、日々の実感としての「感じている幸せの度合い」は回復に転じておらず、指標間でギャップが生じている現状にあるが、このギャップこそが「暮らしへの苦しさや不安はあるが、滋賀という地は好きであり、住み続けたい」という、滋賀に対する愛着や誇りの表れと考えられ、暮らしの安心感を一つずつ積み上げ、「感じている幸せの度合い」の傾向を反転し、上昇させられる施策を展開していくことが必要である。

- 13の政策の柱に位置付けた政策目標については、令和５年度(2023年度)は進捗状況が上向きのものは全体の48.8%だったが、令和６年度(2024年度)は55.8%に上昇し、当該年度の実績が計画最終年度の目標に対して計画策定時よりも近づいている項目が増えているという結果となった。
- 政策別の主だった進捗や課題の一例としては、［政策９ 滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」の推進と地域の活力づくり］では、新型コロナの5類移行を受けて「延べ観光入込客数」や「観光消費額」が増加し、令和６年度(2024年度)の観光消費額は2,265億円に達し、コロナ禍により落ち込んだ1,173億円（計画策定時）から着実に増加しているなど、市場全体が回復基調にあるという外部要因の追い風を受けながら、滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」を基軸とした体験型コンテンツの充実が進んだことで滋賀の新たな価値が見出され、「滞在する目的地」としての魅力が高まっている。
- 着実な進捗が図られたものもある中で、計画策定時には想定し得なかった変化へ十分に対応できなかったものもあり、これまでにないスピードで変わり続ける社会が生む課題へのしなやかな対応が一層重要となっている。

（２）現状認識と方向性

- 幾世代にもわたって価値ある財産として大切にされ、豊かな自然環境と生態系の象徴でもある琵琶湖は、単なる自然資源としてだけではなく、県民に限らず多くの人やあらゆるいきものに癒やしや憩い、恵みをもたらしてくれる存在であるとともに、水の循環を通じて人、地域、自然の繋がりや風土を育んできた。森・川・里・湖のつながりを意識しながら、琵琶湖とそれを取り巻く環境を守り、活かし、次代に引き継いでいく必要がある。
- 一方で、社会の急激な変化に伴う新たな課題も顕在化し、［政策４ 「自分らしさ」が大切にされ、誰もが活躍できる共生社会づくり］では、地域とのつながりが維持されていると感じる人の割合が令和５年度(2023年度)の49.1%から令和６年度(2024年度)は43.8%へと大きく落ち込み、地域コミュニティの弱体化や地域を支える担い手不足による活動の縮小、孤独・孤立等の問題が深刻化している。
- これを地域別にみると、特に人口減少がより顕著な湖北地域(長浜市、米原市)や湖西地域(高島市)よりも、人口が増加している市町が含まれる湖南地域(草津市、守山市、栗東市、野洲市)等の方が落ち込み具合が大きいという結果となった。
- 人口減少がより顕著な傾向が先行的に表れている県北部地域において、目指す地域像に向けて市や事業者等と連携しながら集中的に課題に取り組む県北部地域の振興を進め、県内他地域のモデルケースとなるようなレガシーの創出を追求しているが、同じ共通の課題であっても、地域の人口構成や地域特性等によって課題に対するアプローチが異なる場合もあることや、これまでどおりの形や仕組みではニーズを満たせないケースもあることに留意しながら、既存の枠組みや従来型の手法にとらわれない発想で施策を講じていく必要がある。
- わたしたちの暮らしや地域社会のあり方そのものを揺るがしかねない次のような多面的な変化に対しては、本県が持つ強みを最大限に発揮してその機会をチャンスと捉え、リスクや課題に的確に対処するための打ち手を検討していく必要がある。
  - ◆ ＡＩ等の新たな技術が私たちの暮らしや労働をいっそう便利で豊かにする一方、人の健康と発達への影響などの様々なリスクが指摘されている。同時に、世界では自国ファーストの風潮や経済安全保障を重視する傾向の高まりが、グローバル経済や、気候変動への対応など国際的な協調が不可欠な分野に影響を及ぼしている。
  - ◆ 日本では人口減少が労働供給制約をもたらす一方で、多様な人材の労働参加が顕著となっており、社会は一層多様性の受容を求められている。また、社会インフラが続々と更新期を迎える中で、今後のサービスの担い手や受益者の縮小・減少が見込まれ、今後のあり方について検討すべき時期に来ている。
  - ◆ 日本では他国ほど分断・対立の傾向が顕著でないものの、全国的に価値観の多様化・地域のつながりの希薄化を背景として、孤独・孤立の傾向と、支え合いによる互助機能の低下が課題となっている。

- 実施計画(第３期)では、これまでの取組を継承しつつ、先に記載するような新たに顕在化した課題や県民の不安に寄り添うとともに、世界や将来に対する不確実性や不透明性を「コントロールできないもの」として受け身に捉えるのではなく、これまで積み上げ、受け継がれてきた滋賀の持つ価値や強み等を生かしながら施策を展開していくチャンスと位置付け、基本構想に掲げる「未来へと幸せが続く滋賀」の実現を目指して、「ひと」「社会」「経済」「自然」の全てが充足した「健康しが」の取組を進め、お互いにささえあって「ともにいきる」わたしたちが、次の新たな時代を展望しながら滋賀のこれからをつくる政策を推進していく。
- とりわけ、これからの四半世紀(2026～2050年)は、「拡大」や「定常」を基調としていたこれまでの四半世紀(2001～2025年)とは、人口構造の変化や技術の進展など社会の様相が大きく変わっていくことが想定される。
- そうしたなかでも、私たちの暮らしに必要な機能を持続させ、豊かで充実した生活を営むことができるよう、大切なことは守りながらも、これまでの“当たり前”を創りなおすこと＝暮らしや社会のあり方の「リ・デザイン(再構築)」に向けて施策の展開を図っていく。

２　目指す姿（総合目標）

- 実施計画(第２期)では、『感じている幸せの度合い』『滋賀を誇りに思う人の割合』『滋賀に住み続けたいと思う人の割合』の上昇を目指す姿(総合目標)に設定し、総合目標に影響すると考えられる指標や、各政策の柱における主な事業を別に定め、その目標と実績について毎年度把握し、検証・評価を行っていた。
- 実施計画(第３期)においても、引き続き、基本構想に掲げる「未来へと幸せが続く滋賀」の実現に向けて取組を進めていくことに変わりはないため、実施計画(第２期)の総合目標を継承する。

３　政策の展開

（１）基本方針

- 基本構想に掲げる目指す姿は、「人」「経済」「社会」「環境」の４つの視点で描かれ、それぞれが相互に連動しあいながら全てが充足し、バランスの取れた持続可能な状態である。
- こうした持続可能で調和のとれた社会を構築していくためには、滋賀という地域が「健康」であることが重要であり、自分らしく、生涯にわたり心身ともに健やかに暮らせる「ひとの健康」、人と人、人と地域がつながり支え合う基盤となる「社会の健康」、持続可能な成長と新たな価値の創出、環境と調和の取れた「経済の健康」、琵琶湖や山々などの豊かな恵みを未来へつなぐ「自然の健康」からなる「健康しが」の取組を進めることとし、その政策の柱を政策１～政策10にまとめる。
- また、施策を推進する上では、滋賀県職員の志(パーパス)「琵琶湖とくらしを守る。三方よしで笑顔を広げる。豊かな未来をともにつくる。」を意識する。

（2）全体に通じる視点

ひとづくり

すべての活動の起点には「ひと」。あらゆる政策で地域社会を担う「ひとづくり」を推進。

ともにいきる

年齢や性別、障害のあるなし、国籍などに関係なく、誰もが互いに認め合い、支え合いながら、ともにいきる「健康しが」の取組を進める。既成の領域や境界(ボーダー)、既存の役割やあり方にとらわれない柔軟な「広域的連携」や、生老病死や弱さ・衰えを前提として、多様な主体と組織の垣根を越えて結びつく「共創」の視点で政策を展開する。また、「世界とつながる滋賀」を意識し、外国人県民との多文化共生社会の構築や世界共通の課題解決に向けた挑戦、世界から選ばれる滋賀づくりに向けて、グローバルな視点で政策を推進する。

地域社会のリ・デザイン

人口減少に伴う生産年齢人口の減少(労働供給制約の顕在化)や、地域コミュニティの機能低下、公共インフラの老朽化などの課題を乗り越え、次代に豊かな滋賀をつないでいくためには、従来の枠組みや役割分担を見直すとともに、AI等のテクノロジーを積極的に活用して経営資源の最適化を図りながら持続可能な地域運営を志向し、地域社会を「リ・デザイン(再構築)」していくアプローチが求められる。

未知の変化に直面してもひるむことなく、新たな社会へ移行・転換するためのチャンスととらえる姿勢を、全ての政策の土台としていく。

※本県の「まち･ひと･しごと創生総合戦略」として位置付けるための所要の事項として、「人口減少局面に柔軟に対応する「活力ある地域づくり」」の趣旨も包含。

（3）実施計画(第３期)の推進にあたって

サブタイトル(仮)

～ささえあって、ともにいきる「健康しが」。ひとりひとりの歩みが、次代を照らす。～

計画の全体イメージ図（次スライド）

滋賀県基本構想実施計画（第3期）

～ささえあって、ともにいきる「健康しが」。ひとりひとりの歩みが、次代を照らす。～

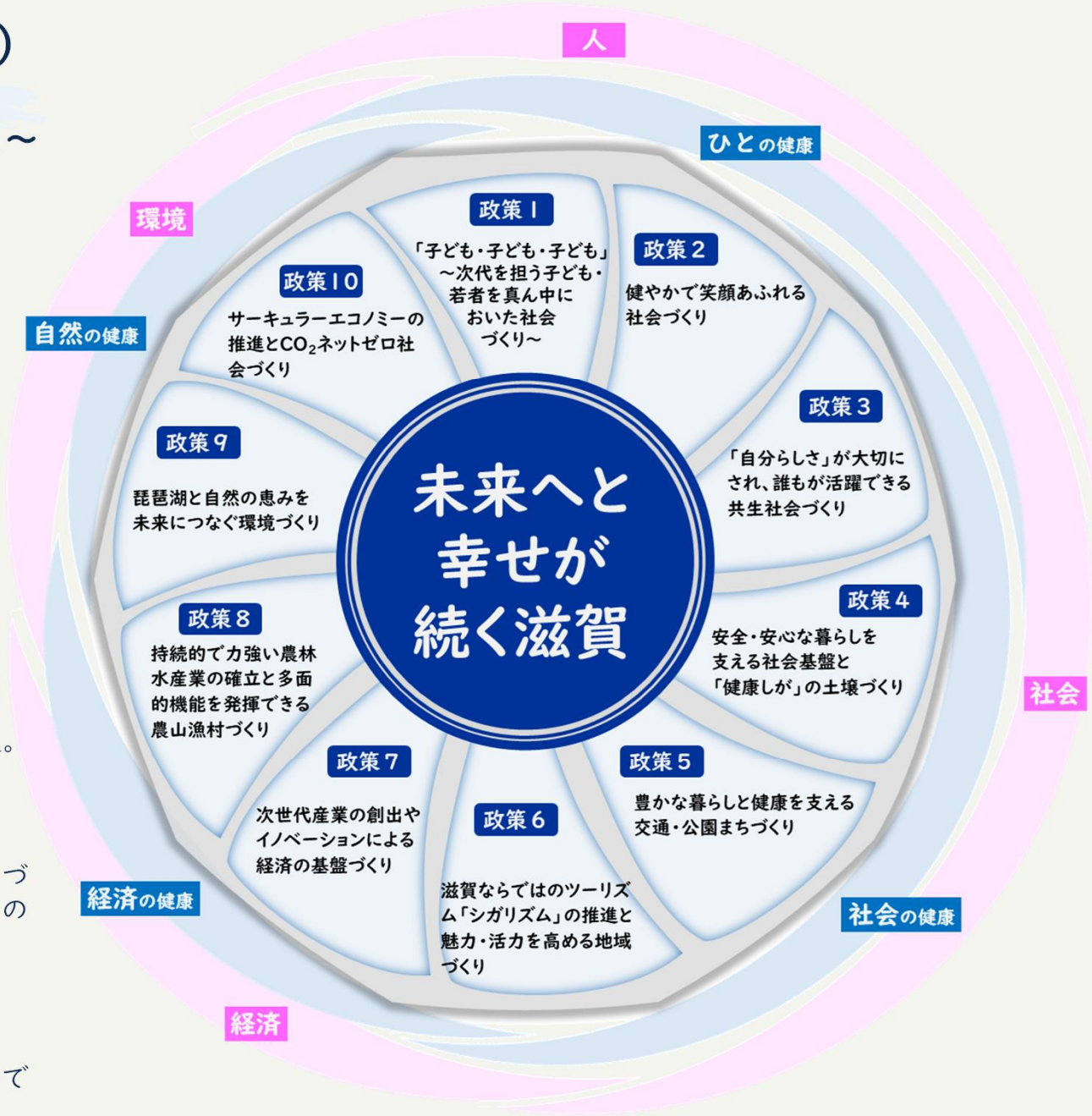
＜目指す姿（総合目標）＞

『感じている幸せの度合い』

『滋賀を誇りに思う人の割合』

『滋賀に住み続けたいと思う人の割合』

を上昇させる



全体に通じる視点

ひとづくり

- すべての活動の起点には「ひと」。
  あらゆる政策で地域社会を担う「ひとづくり」を推進。

ともにいきる

- 互いに認め合い、支え合いながら、ともにいきる滋賀づくりを進める。柔軟な「広域的連携」、多様な主体との「共創」、グローバルの視点。

地域社会のリ・デザイン

- 従来の枠組みや役割分担を見直すなど、あらゆる分野で「リ・デザイン(再構築)」を進める。新たな社会へ移行・転換するためのチャンスととらえる。

Next　いまの基本構想のその先へ…

4　政策の柱

政策Ⅰ　「子ども・子ども・子ども」～次代を担う子ども・若者を真ん中においた社会づくり～

人　社会　経済　環境　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　自然の健康

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：子ども若者部、農政水産部、教育委員会事務局）

- ✓ 子どもの権利を守り、子どもの声の県政への反映を推進し、子どもの笑顔を増やすことに向けた社会全体の機運を醸成する。
- ✓ 困難な状況にある子どもや若者にきめ細かく寄り添った切れ目ない支援により、安心して育ち学ぶことができる環境をつくる。
- ✓ 将来を見据えた健康づくりやライフデザインの実現を支え、安心・安全な環境の中で子どもを望み、産み、育てることができる社会を構築する。
- ✓ 若者が次代の担い手として、未来を描きながら自分らしく成長することができる環境をつくる。
- ✓ 確かな学力と豊かな人間性を育む教育を推進するとともに、滋賀の豊かな自然や地域資源を活かした体験機会・学びの基盤の確保により、子どもたちの豊かな感性と生きる力を養う。
- ✓ 滋賀県立大学や滋賀県立高専をはじめとした、県内高等教育機関の振興・連携を図り、持続可能な社会づくりを牽引する人材の育成や、社会課題の解決につながる研究を推進する。

施策の展開

○「子ども・子ども・子ども」の基盤づくり
（子どもの声を聴き、権利を守る　等）

○困難な状況にある子ども・若者
（きめ細かな対応が必要な子への支援　等）

○子育て環境
（切れ目のない子育て支援の充実　等）

○若者
（ライフデザインの支援　等）

○教育
（子どもの健やかな学びと育ち／食育の推進／県内高等教育機関の振興・連携　等）

○学びの基盤
（子どもと若者の夢をはぐくむ、学びの基盤づくりや体験機会の確保　等）

政策2　健やかで笑顔あふれる社会づくり

人　社会　経済　環境　　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　自然の健康

（※主な関連部局（想定）：観光文化スポーツ部、健康医療福祉部、農政水産部）

政策の目指す方向

- ✓「こころ」と「からだ」の健康づくりを推進し、住み慣れた地域で生涯にわたっていきいきと暮らせる社会の実現を目指す。
- ✓ 持続可能な医療福祉・介護体制の構築のもと、誰もが安心して生活できる基盤を確立し、ひとづくりを進める。
- ✓ 誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会の創出と、文化財の保存・活用による滋賀の豊かな歴史と誇りを未来へ引き継ぐ。
- ✓ 人と動物の豊かな関わりを促進し、あらゆるいきものと「いのち」を大切にする社会をつくる。

施策の展開

〇健康づくり
（「こころ」と「からだ」の健康づくりの推進／地域で持続可能な医療福祉・介護体制づくり／大人の食育　等））

〇高齢者
（高齢者の暮らしを支える体制づくり　等）

〇文化芸術
（文化芸術を楽しむ機会と環境づくり／文化財の保存と活用　等）

〇スポーツ
（誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり　等）

〇人と動物の関わり
（人と動物の豊かな関わり　等）

政策3　「自分らしさ」が大切にされ、誰もが活躍できる共生社会づくり

人　社会　経済　環境　　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　自然の健康

（※主な関連部局（想定）：総合企画部、健康医療福祉部、商工労働部）

政策の目指す方向

- ✓ 人権尊重やジェンダー平等をさらに一歩進め、互いに認め合い、一人ひとりが尊重される共生社会の構築と実現を目指す。
- ✓ 多様で柔軟な働き方の推進や、時代の変化に応じた学び直し・再挑戦がしやすい環境を整え、誰もがいつまでも自分らしく活躍できる社会をつくる。
- ✓ 戦争の記憶を風化させることなく継承し、平和への取組を推進することで、平和を願い、その尊さを次世代に伝え、安全な社会の礎をつくる。

施策の展開

〇人権尊重
（人権尊重の社会づくりの推進　等）

〇共生社会
（互いに認め合い、一人ひとりが尊重される社会づくり　等）

〇ジェンダー平等の推進
（一人ひとりが幸せを感じるジェンダー平等の推進　等）

〇多様で柔軟な働き方
（誰もが活躍できる多様で柔軟な働き方の推進　等）

〇学び直しや再挑戦
（学び直しや再挑戦／異分野・異業種への参入がしやすい環境づくり　等）

〇平和
（戦争の記憶を風化させない、平和への取組の推進　等）

政策4　安全・安心な暮らしを支える社会基盤と「健康しが」の土壌づくり

人　**社会**　経済　環境　　ひとの健康　**社会の健康**　経済の健康　自然の健康

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：知事公室、総合企画部、総務部、琵琶湖環境部、健康医療福祉部、商工労働部、農政水産部、県土整備部、交通まちづくり部、警察本部）

- ✓ 激甚化する災害に備え、ハード・ソフト両面から地域防災力を強化するとともに、感染症等の健康危機管理対策を推進する。
- ✓ 強靱で持続可能な社会インフラの整備・維持管理を進め、県民の暮らしや経済活動の基盤を守る。
- ✓ 日進月歩で進化するAI等の技術革新を積極的に取り入れ、誰もが普段の暮らしの中でAI・デジタルの恩恵を受けられる地域社会づくりを推進する。
- ✓ 防犯・交通安全対策を徹底し、県民の命と暮らしを守る。
- ✓ 生涯を通じた学びの推進や、空き家対策を含めた地域コミュニティづくりを進め、活力ある地域社会の土壌を育む。

施策の展開

○社会インフラ
（強靱かつ持続可能な社会インフラの整備・維持管理／インフラDXの推進　等）

○AX／DX推進
（地域DX推進のための伴走支援拠点整備／エリアデータ連携基盤へのAI連携機能の追加／外部専門人材による市町AX・DX支援　等）

○知・情報・熟議
（生涯学習の振興や読書活動の推進／図書館機能・ネットワークの充実／みんなで熟議の滋賀県政　等）

○防災・健康危機管理
（自助、共助、公助による地域防災力の強化／防災人材の育成・確保／健康危機管理対策の推進　等）

○防犯・交通安全
（犯罪・交通事故の少ない安全・安心な地域づくり　等）

○空き家
（空き家の発生予防・利活用と解体の促進　等）

○地域コミュニティ
（地域特性に合ったコミュニティづくりと地域づくり人材の育成・確保　等）

政策5　豊かな暮らしと健康を支える交通・公園まちづくり

人　**社会**　経済　環境　　ひとの健康　**社会の健康**　経済の健康　自然の健康

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：交通まちづくり部）

- ✓ 地域の拠点をつなぐまちづくりを推進し、利便性が高く持続可能な生活圏を構築する。
- ✓ 「移動しやすく、暮らしやすく、豊かな滋賀」の実現に向けて、暮らしを支える地域交通の維持・充実を図る。
- ✓ 県全体が水と緑と人でつながる一つの大きな公園「THEシガパーク」の実現に向けて、魅力向上と賑わい創出を図る。

施策の展開

○交通まちづくり
（地域の拠点がつながる持続可能なまちづくりの推進／「より良い暮らし」の実現のための移動手段の充実／みんなの移動を支え、暮らしを豊かにするための財源の検討推進　等）

○THEシガパーク
（計画的な修繕や魅力を高める整備／官民連携の促進／魅力発信や全国都市緑化フェアの開催　等）

政策6　滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」の推進と魅力・活力を高める地域づくり

人　社会　経済　環境　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　自然の健康

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：総合企画部、総務部、観光文化スポーツ部、農政水産部）

- ✓「シガリズム」の推進により滋賀の魅力のさらなる磨き上げに取り組み、国内外からの観光誘客による地域活性化を図る。
- ✓ ビワイチを軸に、「だれでも、どこでも、いつでも」楽しめる質の高いサイクルツーリズムを推進するとともに、ウォーキングや他の交通手段を組み合わせた「ビワイチ」の新たな楽しみ方をつくりだす。
- ✓ 人口が減少する中にあっても活力ある地域づくりを進めるため、移住の促進や関係人口の創出・拡大を図る。
- ✓ 県北部地域で展開した先進事例から得られた知見やノウハウを、レガシーとして県内の他地域へ波及させる。
- ✓ 首都圏情報発信拠点「ここ滋賀」やWEBメディア等を通じ、滋賀のもつ歴史や文化、食など多様な魅力を戦略的に発信することで、認知度やブランド力の向上を図り、滋賀を応援する継続的なファンを増やす。

施策の展開

〇観光
（滋賀の魅力をさらに磨き、観光誘客につなげる「シガリズム」の推進／「だれでも、どこでも、いつでも」楽しめるビワイチの推進　等）

〇移住・関係人口
（県北部地域の振興・レガシー創出と、移住促進・関係人口の創出　等）

〇ブランド力の向上や販路開拓に向けた対外発信
（首都圏情報発信拠点「ここ滋賀」およびWEBメディアなどでの情報発信の充実　等）

政策7　次世代産業の創出やイノベーションによる経済の基盤づくり

人　社会　経済　環境　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　自然の健康

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：商工労働部、県土整備部）

- ✓ エコシステムの充実を通じて、滋賀発のイノベーションの創出や産業クラスターの形成につなげ、次世代産業を創出する。
- ✓ 起業・スタートアップ支援を強化し、変化の大きい社会に対応した新しいビジネスや多様な雇用が継続的かつ自立的に生まれる環境をつくる。
- ✓ 滋賀の強みを活かした産業立地や海外展開の機会を創出し、世界から選ばれる地域経済を確立する。
- ✓ 中小企業の経営基盤の強化・下支えによる地域経済を力強く牽引する事業者と、これからの滋賀を支える産業人材の育成を推進する。

施策の展開

〇 次世代産業の創出
（企業・大学・研究機関等によるエコシステムの充実／総合的な支援による産業クラスター形成　等）

〇産業のひとづくり
（産業のひとづくりの推進　等）

〇起業・スタートアップ支援
（起業・スタートアップ支援　等）

〇地場産業の振興
（販路開拓、経営基盤の強化　等）

〇中小企業の経営基盤の強化
（中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化・下支え　等）

〇世界から選ばれる滋賀
（滋賀の経済成長につながる産業立地の推進／滋賀の強みを活かした海外展開の機会の創出　等）

〇地域経済の発展に資する基盤整備
（道路ネットワーク整備や流域治水の推進　等）

政策8　持続的で力強い農林水産業の確立と多面的機能を発揮できる農山漁村づくり

人　社会　**経済**　**環境**　ひとの健康　社会の健康　**経済の健康**　**自然の健康**

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：農政水産部、琵琶湖環境部）

- ✓ 需要の変化に対応できる生産力の確保、地域の魅力や強みを生かした生産の推進や多様な担い手の確保・育成により、持続的で力強い農林水産業を確立する。
- ✓ 多様な主体との協働による地域資源の保全・活用を通じて、農山漁村の持つ多面的な機能を最大限に発揮する。
- ✓ 気候変動や自然災害リスクに対応するとともに、オーガニックを含む環境こだわり農業等の展開や漁場環境の保全などにより、環境と調和がとれた農林水産業を展開する。

施策の展開

○食の礎を担う力強い農業・水産業
（需要の変化に対応できる生産力の確保／生産性向上に対応した基盤整備の推進　等）

○林業の成長産業化
（活力ある林業生産の推進等）

○豊かな環境と調和のとれた農林水産業
（豊かな自然環境と調和のとれた農林水産業　等）

○農林水産業、農山漁村の担い手・支え手確保、ファン拡大
（農林水産業の担い手の確保・育成　等）

○農山漁村の維持・活性化
（多様な主体の連携・協働による地域資源の保全・活用　等）

政策9　琵琶湖と自然の恵みを未来につなぐ環境づくり

人　社会　経済　**環境**　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　**自然の健康**

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：琵琶湖環境部）

- ✓ 森・川・里・湖のつながりを踏まえ、琵琶湖とそれを取り巻く環境の保全再生を図るとともに、そこから得られる自然の恵みを持続的に活用する取組を推進する。
- ✓ ネイチャーポジティブの実現に向けて、生物多様性の保全と社会・経済活動の基盤を確保する取組を進める。
- ✓ 多様な主体との協働により、琵琶湖版のSDGsである「マザーレイクゴールズ（MLGs）」を推進するとともに、環境問題に主体的に関わることができるひとづくりを行う。
- ✓ 琵琶湖や生態系などの課題解決に資する調査研究や技術開発を進めるとともに、得られた知見などの発信により世界の湖沼保全に貢献する。

施策の展開

○琵琶湖とそれを取り巻く環境
（琵琶湖の保全再生と活用／ネイチャーポジティブの推進／マザーレイクゴールズ(MLGs)の推進、環境汚染物質の排出抑制　等）

○やまの健康
（多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり／獣害対策　等）

○環境課題の調査研究、国際発信等
（調査研究・技術開発の推進／国際的な協調と協力　等）

○環境学習等
（環境学習等の推進　等）

政策10　サーキュラーエコノミーの推進とCO_2ネットゼロ社会づくり

人　社会　経済　環境　ひとの健康　社会の健康　経済の健康　自然の健康

政策の目指す方向

（※主な関連部局（想定）：総合企画部、琵琶湖環境部、農政水産部）

- ✓ 2030年の中間目標達成に向けて、CO_2ネットゼロ社会づくりの推進をさらに加速させ、良好な環境を未来に引き継ぐ。
- ✓ CO_2ネットゼロの実現に向けた取組によって地域や産業の持続的な発展につなげる。
- ✓ 大量生産・大量消費・大量廃棄による一方通行型の経済社会活動から、環境負荷が低減され、持続可能な形で資源を利用するサーキュラーエコノミー（循環経済）への移行を推進する。

施策の展開

〇気候変動
（CO_2ネットゼロ社会づくりの推進／再エネ導入・省エネ推進／イノベーションの創出／吸収源の確保・維持、適応策の推進　等）

〇サーキュラーエコノミーの推進
（循環経済モデルの構築／資源循環の促進　等）

5　巻末

現基本構想の先(2031年)を見据えて…

次スライドのとおり

いまの基本構想の先を見据えて…

令和12年(2030年)はゴールではなく、スタートライン

- 現基本構想では、「未来へと幸せが続く滋賀」の実現に向けて令和元年度(2019年度)より取組を推進してきた。
- 実施計画(第３期)は、現基本構想の最終期であると同時に、さらにその先を見据えた新たな出発点である。
- 「これまで」と「いま」、そして「これから」との連なりも意識しながら、実施計画(第３期)の推進と並行して、現基本構想の先を見据えた本格的な検討に着手する。
- その検討にあたっては、「しが2100未来研究会」での活動を通じて得た視点やヒントも参考にしながら次なる目指す姿の輪郭を捉え、ビヨンドSDGs等の世界の潮流とも歩調を合わせながら、滋賀から新しい生き方・暮らし方のモデルや持続可能な社会のあり方を示していく。

【これまで】連綿と続いてきた、滋賀の“源”

- ✓ 琵琶湖をはじめとする自然や、歴史・文化、「三方よし」や「利他」のこころなど、滋賀の地に連綿と続いてきた、ともにいきる人や地域、自然にも思いを寄せる精神

×

【これから】次代へのしなやかな適応

- ✓ 変化が早く、大きいことや、未来が不確かで不透明であることを恐れないようにするだけでなく、その変化の中でも安定した軸を持ち、柔軟に適応し続けること

大切なものが変わらないように守ることと、しなやかに変わり続けていくこととのバランスを取りながら、

“いま”をいきるわたしたちが、どんな滋賀を残したいかという未来の絵姿をみんなで共有し、
“いま”を起点になすべきことを考え、これからの道すじを描いていく